

第1回「宇都宮市自転車のまち推進協議会」等での意見に対する考え方について

1 目標値の設定に関する意見

- ・全国的な傾向として、自転車施策における数値目標では「自転車分担率の増」と「自転車事故の削減」の二本柱を中心に設定されており、この二つの目標を達成するために、どのような施策事業を位置付けていくのかを検討する必要がある。(古倉アドバイザー)

⇒自転車走行空間の整備や交通安全教室の実施などの既存事業に加え、「自転車事故の削減」につながる新たな施策を検討してまいります。

また、「自転車分担率の増加」につきましても、自転車通勤の促進などの施策を検討してまいります。

2 自転車の利用目的に関する意見

- ・全ての目的で自転車分担率を向上させることは難しいため、通勤などに焦点を絞りながら具体的な施策を挙げていくことが望ましい。(古倉アドバイザー)

⇒「自転車のまち推進計画」は自転車施策に係る総合的な計画として幅広い施策を取り込むものとし、通勤・通学など日常的な利用の促進のほか、レジャーや余暇活動、観光振興における活用などについても位置付けているところであり、後期計画においては、特に通勤利用の拡大や公共交通の利用につながる施策について、積極的に取り組んでまいります。

3 自転車の位置づけに関する意見

- ・車道への自転車走行空間の整備にあたり、車との相関関係を踏まえ、「自転車は車と対等」又は「近距離では自動車より利便性が高い」など、自転車の位置付けを明確にしたほうがよい。(古倉アドバイザー)

⇒前期計画においては、近距離における自転車の利便性について明示しておりますが、後期計画においては、ネットワーク型コンパクトシティの形成やLRT導入とそれに伴う交通ネットワークの再編を踏まえた都市交通としての自転車のあり方、さらには、道路交通法の主旨に基づき、車両という考えを踏まえた自転車の位置付けを明示してまいります。

4 自転車都市の位置づけに関する意見

- ・「自転車のまち」は平成22年度の計画策定当時、あまり例がなかったが、現在では、全国的にも自転車施策が進められており、「自転車のまち」はいささか平凡になってきている。単純に日本一を掲げてもインパクトに欠けることから、「我が国最大の自転車への転換都市」などといった、都市の特徴も合わせて位置付けることが望ましい。(古倉アドバイザー)

⇒前期計画から都市の特徴を取り入れたブランドメッセージである「走れば愉快だ宇都宮」を掲げ、後期計画においても引き続き活用するとともに、「自転車のまち宇都宮」として、さらなるPRを図るため『つながる』を使用したフレーズなどの検討をしてまいります。(例：自転車でつながる～自転車のまち宇都宮)

5 新たな施策の柱「つながる」に関する意見

- ・新たな施策の柱である「つながる」について、自転車と公共交通との連携を強化することは大変重要であるが、言葉の状態として、結果ではなく手段の状態を示していることから、「安全」や「快適」など他の施策の柱と整合性を図り、「連続」「連携」などといった代替案を検討してみてはいかがか。(古倉アドバイザー)

⇒「自転車のまち宇都宮」のさらなる推進として、人や公共交通などと自転車が密接につながる必要がありますことから、新たな施策の柱のとして「つながる」を設定するとともに、「安全」や「快適」など他の施策の柱ともつながる取組についても検討してまいります。

6 条例制定に関する意見

- ・自転車施策を日本一と位置づけるのであれば、総合的なまちづくりとして条例を制定してはどうか。(刑部委員)
- ・自転車に乗る際に、ヘルメットの着用を義務づける条例制定も視野に入れてはどうか。(古倉アドバイザー)

⇒条例制定にあたりましては、他都市の制定状況や効果などを踏まえ、また、安全性を高めるヘルメット着用の普及促進につきましては、市民の道路交通法の改正や安全に対する意識の熟度などを考慮する必要がありますことから、まずは実効性のある取組を検討してまいります。

7 施策の柱「健康とエコ」に関する意見

- ・施策の柱のひとつ「健康とエコ」について、本市では、自動車によるCO₂排出量が多く、環境負荷の低減を図るため、自動車から自転車への転換策を強化すべきである。「エコ」では「エコノミー(経済)」と混同してしまう可能性もあるため、環境の視点をより打ち出していくため、「健康とエコ」から「健康と環境」に変更してはいかがか。(古池会長)

⇒「エコ」につきましては、一般的に「環境負荷の低減」という意味で広く認知されておりますとともに、前期計画の継続性も踏まえ、引き続き「健康とエコ」を施策の柱として設定してまいりたいと考えております。

8 オリオン通りの自転車走行に関する意見

- ・現状のオリオン通りにおいて、歩行者が多い中で自転車が徐行をすることなく走行しており危険だと考えられるが、自転車はどのように走行するべきか検討してみてはいかがか。(大島委員)

⇒オリオン通りにつきましては、地域、学校、警察と連携し、自転車利用者に直接ルール遵守などを呼びかける街頭活動などを継続してまいりますとともに、さらなる安全利用のあり方につきましても、商店街や交通管理者などと意見交換を行いながら検討してまいります。